

## 宣言文手渡し式における実行委員長発言要旨（口頭）

実行委員長の上田哲男です。9日に、大規模対話フォーラムの宣言を討論者から受け取りました。本日は、解説文を用意した上で、「宣言文」を北海道農政部にお受け取りいただこうと参りました。まず初めに、討論者たちの“開拓の実り”である共同宣言を朗読・ご披露し、その後で、コメントを述べたいと存じます。

### 宣言文の朗読＋

詳しくは解説文にありますので、ここでは宣言文の背景にある討論者たちの思いを、お伝えしたいと存じます。

討論者は、農業、酪農、製造業などの生産者、主婦、流通業などの消費者、植物の育種研究に携わる実験科学者、花粉の飛散や交雑を研究する実験科学者などさまざまな職業に従事されています。考え方、立場の違い、さらには、利害関係のあるなかで、よくもここまでまとめてくださった、と感無量です。その原動力は、自分たちの住む北海道をよくしたい、子・孫にもっとよくして手渡したい、との共通の信念だと思えます。さらには、人として当然あるべきすべてのことを達成するために、大志をいだけ、という教えを受け継ぐ道民の誇りだと思えます。

対話の具体的な3つのテーマですが、これも討論者自らが対話を通じて、決定されたものであることを強調しておきたいと思えます。

まず第一に選ばれたのが“選択の自由”です。ここでは、遺伝子組み換え作物使用に関する表示の問題を、具体的に提案しています。しかし、その心は、これに限らずいろいろなことに対応するにあたって、行政は、消費者が選べるような多様な状況を確保して欲しい。生産者が選ぶことができる状況を実現してほしい、と訴えています。行政に期待しております。

第二のテーマ、北海道の農業の将来を考える、ですが、ここでは具体的な提言をしています。宣言文には“遺伝子組換え作物の開発・栽培研究も必要であると考えます”、との表現がありますが、これは決して、“遺伝子組み換え作物を開発し、その栽培が必要だ”と言っているのではありません。ましてや商業栽培の道をつけるとの合意でもありません。これは前提条件とセットになっている点が大切です。すなわち、“安全で安定的な食の生産と日本の食文化を守る北海道農業の多様性を確保する”ことを求めています。このためにもし必要ならば、手順を踏んだ遺伝子組み換え作物の研究もむげに否定するものではない、と言っています。行政におかれましては、これを実現するための農業政策をまず実施していただきたく存じます。

第3のテーマでは、充実したコミュニケーションの必要性を認識し、科学者ら専門家を含む市民が継続的に対話できる機会が確保されるべき、であると、行政に求めています。この点につきましては、ちょっと手前味噌になりますが、わたしたちの対話フォーラムのやり方が、参考になり、近い将来に、このような方向性が見られるならば、実行委員会としてこれ以上の喜びはございません。

最後になりますが、宣言文の作成にあたっては、討論者の作成になる原案に対して、傍聴者も意見を述べ、討論者がさらに検討して、最終版を作成しています。この意味で、対話フォーラムの参加者全員が宣言文に貢献していることになります。

北海道の農業行政は、全国に先駆け、食の安全推進局を設けられ、諸問題に対応されていることに敬意を表します。わたしたちの共同宣言ならびにその精神を行政に活かしていただけると、道民としてさらなる励みになります。よろしくお願いいたします。

2008年8月20日

遺伝子組み換え作物を考える大規模対話フォーラム実行委員会委員長  
上田哲男